

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071201390		
法人名	社会福祉法人 皆楽園		
事業所名(ユニット名)	グループホームなごみ ①ユニット		
所在地	和歌山県岩出市水栖644-1		
自己評価作成日	令和4年2月14日	評価結果市町村受理日	令和4年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3071201390-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3071201390-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和4年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念“誰もが利用したいと思えるグループホーム、生き生きと笑顔で暮らす”を大切に、利用者様が安心して居心地良く過ごして頂けるグループホームを目指しています。ご利用者様一人ひとりに寄り添い楽しみのある日常生活を送って頂けるよう支援し、又支え合える環境作りに努めています。個々の疾患による状態・体調変化に早期発見し、ご家族様、主治医との連携を取り、早期対応に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍のなかでも、法人内でリモートによる研修参加や内部研修の実施に取り組み、職員のレベルアップを図られている。また、運営推進会議が対面形式で開催できない状況であるが、書類を作成のうえ、参加者に直接届け意見を伺うなど、グループホーム運営についての職員の意識の高さを感じられる。思い通りに外出できない代わりに、事業所内にてアイスや果物でパフェを作ったり、桜餅を作る等季節を楽しむ小さなイベントを催し、共に笑顔で暮らすことのできるよう、入居者を第一に考えた支援がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に理念を唱和し、又ホール内に提示し、スタッフ全員が常に理念を意識し共有しケアに努めている。	理念はホールに掲示され、法人の理念も含めて日々唱和している。特に”入居者本位の立場に立って支援する。入居者の気持ちに寄り添っていく”など、職員は、具体的に理念を意識し共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症防止の為地域との交流は自粛している。訪問理美容の利用やかかりつけ医への定期健診は行っている。	コロナ禍の影響に伴い、現在は自治会の掃除に職員が参加すること等に留めている。しかし、事業所の隣にあるコミュニティサロンを地域に開放のうえ、認知症カフェやその他催し物等を開催し、入居者も参加・交流を図っている。コロナ収束後は、中学生からの体験学習やボランティアの受け入れ等を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	取り組みや認知症の方への支援について状況報告等文章にして配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は中止しているが、二か月に一度文章での活動報告とサービスの状況、職員の研修報告を行っている。	活動報告など運営推進会議で話し合われる内容に写真も添えて、家族には郵送、自治会の正副区長、地域包括支援センター職員、市の担当者等には直接届けて意見を伺っている。その際、食事の内容についての質問や、知人ご家族の相談をされることもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員の方には、活動報告、状況を文章で直接窓口に届け、分からないことは相談し協力関係を築ける様努めている。	市職員の方とは、コロナ禍の現状に即した対応を報告したり、介護保険についてのわからないことを相談に乗っていただくなど、連携体制が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内研修で身体拘束をしないケアについて学び実践に取り組んでいる。	身体拘束適正化委員が中心となり、内部研修を行い職員の意識の向上に努めている。ただ、入居者の身体状況を鑑み、転倒予防にマットを敷いたり玄関の施錠をすることもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修で高齢者虐待防止について学び、話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はいないが、研修で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項について十分な説明を行い理解、納得を頂けている。又、変更事項がある時は必ず同意書を交わし納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の要望やご家族様の要望は電話や来居時に聞かせて頂き、又、毎月ご本人様の様子や医療等について報告しケアに繋げ対応できるよう努めています。	コロナ禍の現在は、毎月1回入居者の現状と写真を郵送した際、意見をいただくように努めている。コロナ禍以前は、面会だけでなく、薬やオムツを持ってきていただく際にも意見や要望を聞き、運営に反映するよう努めていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は日々の業務中や会議等で聞く機会を設け、又、毎月の行事は担当者を決め主体的に考え実施しています。	代表者は年2回個人面接を行うとともに、業務の中でも会話するように心がけ、信頼関係を築くよう努めている。また、備品の購入とともに、3月だから桜餅を作る、干支の飾り作り等のイベントは、職員の意見を反映させたものであり、風通しのよい組織体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、職員が目標を持って働ける環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修、又研修項目を担当し研修を行い実践に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム4事業所代表で研修を行い取り組みや、介助方法など意見交換を行い、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントによる生活歴等把握し、ご本人の思いや要望を聞き状態を把握し、安心して過ごして頂ける様努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを理解し不安や要望等話し合う時間を持ち関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態に合わせ、ご本人とご家族のニーズを受け止めサービスを提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の得意な事、興味ある事を探り参加して頂く環境作り、共に生活が送れるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係を大切にし、感染防止の為通常の面会は出来ていないが、スクリーン越しに面会して頂く事や電話でこまめに状態報告し共に支援する関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染防止の為外出は控えている状況だが、馴染みの方と携帯電話で自由に連絡を取って頂いたり、写真を見て馴染みのある方や場所を思い出されています。	コロナ禍の現在は、日課であるウッドデッキでの日光浴や散歩への取組回数により、スタンプを増やす楽しみや、自宅へ郵便物等を一緒に取りに行ったり、車の中から花見を楽しむ等、本人に寄り添った工夫した支援がなされている。コロナ禍以前は、事業所隣にあるコミュニティサロンにて、週1回パンや野菜の販売があり、入居者は買い物を楽しみにしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や思いを把握し、ご利用者同士の良い関係が保てるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた後も、面会や電話で情報交換する等して、本人と家族が安心してサービスが受けられるように相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から、本人の望んでいる事や好きな事の把握に努め、日頃の支援に繋がっています。把握が困難な場合はご家族からも情報を得ています。	入居の際、家族・入居者から生活歴を詳しく聞き取り支援に活かすようにしている。意思疎通の困難な入居者も、常日頃から表情など観察し、細やかな記録を残して職員間で共有している。なお、これまでの状態把握だけでなく、新しい職員の気付きや視点も取り入れるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式に記入して頂き、ご本人・ご家族に今までの暮らしの様子を聞き取り、生活歴や情報を得て思いの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況、一日の流れから一人ひとりの状況や状態を把握し、変化があればその都度チームで共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケース会議で一人ひとりの課題について全員で検討し、介護計画に反映させご本人・ご家族の思いに添った計画を作成している。	職員が入居者の状態を把握・共有を図ったうえで、家族・主治医等との話し合いを行い、3か月毎に振り返り、6か月で更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、一日の流れ、生活状況に記録している。情報を申し送り、気付きなど職員で共有し介護計画やケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況に応じて、日々の過ごし方や通院、買い物、散髪等の支援を相談し行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方や地域の消防団、職場体験等地域交流がありましたが現在コロナ禍の為にできていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診、往診で入居前と変わらない医療を受けられている。ご家族や職員共受診時の情報共有をしている。	入居前のかかりつけ医を継続している入居者が多く、バイタル表や状況の詳細を共有した家族が受診に付き添っている。日・祝日は、協力医療機関との連携が24時間体制で図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の診療所と連携をとり、ご利用者の状態が変化した時等、情報を伝え相談しながら健康管理の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には病院関係者に日常の様子など情報提供し、入院中は状態や経過についてご家族や病院関係者に様子を伺い早期退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の際には早い段階からご家族や医師と相談し、身体的機能低下に伴い事業所で出来るケアを説明し方針を共有し支援している。	重度化や終末期に向けた方針については、入居時に話し合いを行っている。入居者の状態に応じ、都度家族と相談し、訪問看護を依頼するなどの対応を行っている。また、入浴が困難になったり、全介助になった時点等で、再度家族と話し合いを持ち、同法人の特別養護老人ホームや協力医療機関への移動などを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修やオンライン研修に参加、又ホーム内研修を行い、急変時や事故発生時に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や消火器の使い方、避難経路の確認を行っている。緊急時の連絡体制により応援要請し早期対応できるように取り組んでいる。	DVD視聴による研修を1回。地域の消防団と連携し、入居者も参加する昼夜想定災害訓練を年2回実施している。実施の際は、市の担当者や地域の区長に参加を依頼している。備品もそれぞれのユニット毎で確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重しプライバシーに配慮した声掛けをしている。	入居者への言葉かけや配慮については、事業所内研修で学びあっている。例えば、リビング等で職員が気付いた際は、まずは椅子から立っていただくように声掛けをし「一緒に行きましょう」とトイレに誘導するよう努めている。また、個室は内部から施錠できるようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる場面を作り、ご利用者が思いや希望を意思表示できるよう取り組んでいる。意思表示が難しい方には、選択できる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせてその日の希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候や気温に合わせてご本人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生日等では好みのメニューを提供し、旬の食材も取り入れている。おやつにも旬の果物等を用意し季節を感じて頂いている。	食事の内容によって、盛り付けや食器洗いを職員と一緒にやっている。天気のよい日は、お弁当を作りウッドデッキで食事をしている。購入したアイスと季節の果物で特製のパフェと一緒に作るなど、おやつ作りは、入居者全員が楽しんで行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量は記録し職員全員が把握できるようにしている。嚥下状態が低下されているご利用者には刻み食も対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々の口腔状態に応じて口腔ケアを支援している。入れ歯の方には、入れ歯洗浄で瀬尾結保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しサインを見逃さず声掛けしトイレ誘導している。出来ることはしていただき自立にむけた支援を行っている。	個々の排泄表に基づき、ケース会議にて協議し個々の対応を検討されている。水分の適正摂取やバナナ・ヨーグルト・サツマイモ・キノコ類等を多く摂取する等、早め早めの対応がとられている。紙製から布製のパンツに変わるなど、自立度が上がった入居者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	状態に合わせて水分補給やヨーグルトや牛乳を摂取して頂いている。状態に応じて緩下剤や整腸剤で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やバイタルを確認してご本人の希望やタイミングに合わせて入浴して頂いている。入浴以外は清拭を行い清潔保持に努めている。	時間は特に決めていないが、午後おやつを食べて一息ついた頃に入浴を希望する方が多い状況である。基本的に、毎日入浴可能であるが、隔日を希望される入居者が多い。お湯は、一人ひとり交換し、ゆず湯や菖蒲湯などの季節湯や入浴剤等で楽しめるよう配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状態を把握し、その日の状態に応じて落ち着き安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を使用し職員間で再確認している。服薬に変更があれば申し送り共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に合わせて楽しんで頂ける様支援している。洗濯物等家事仕事も安全に行えるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防対策に伴い現在外出は出来ないが中庭を散歩したりと可能な範囲で楽しんで頂ける様努めている。又、買い物はご利用者の要望に応じて代行している。	コロナ禍以前は、事業所隣にあるコミュニティサロンに週1回他の福祉施設からのパンや野菜の販売があり、入居者は楽しみにしていた。コロナ禍の現在は、毎日の日課であるウッドデッキでの日光浴や散歩への取組回数でスタンプが増える楽しみや、自宅への郵便物等を一緒に取りに行くこと、お墓参りへのドライブを楽しむなど、一人ひとりに配慮した外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事で安心されるご利用者には、ご家族の許可を得て所持して頂き使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の思いに寄り添い年賀状や暑中見舞いを書いて頂きご家族に送っている。ご家族や友人に電話でお話ができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温管理、湿度調整、換気をしている。季節に合った飾りを居室前や玄関に飾っている。テレビの音量調整等も行っている。	ユニットに囲まれた広々としたウッドデッキに、日が差し込み、温かい雰囲気が漂っている。ホールには、入居者・職員等が協力して作成した雛飾りや桜をモチーフとした大きな作品が飾られている。また、ソファや椅子も適度に配置され、新聞や雑誌をも思い思いの場所で楽しめるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者気の合う方とくつろいだり、個々で過ごせる環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に馴染みのある家具や置物を持ち込んで頂き安心して過ごして頂ける様に努めています。	居室には、予めベッドとタンスが備え付けている。また、個々のお気に入りの家具・家族の写真・鉢植え等を持ち込んでいただき、日々気持ちよく過ごせるよう居室づくりがなされている。なお、西側の窓にはすだれをかけ、夕日が入らないよう配慮もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やホール等に手すりを設置し、障害物等を配慮し安全に過ごせるよう環境作りに努めている。		